

募集案内

理学療法士・作業療法士研修プログラム

名称	北海道公立大学法人 札幌医科大学付属病院					
病院長	土橋 和文					
所在地	北海道札幌市中央区南1条西16丁目291番地					
診療科数	【29診療科】 消化器内科／免疫・リウマチ内科／循環器・腎臓・代謝内分泌内科／呼吸器・アレルギー内科 ／腫瘍内科／血液内科／脳神経内科／消化器・総合・乳腺・内分泌外科／心臓血管外科／呼吸器外科／整形外科／脳神経外科／神経再生医療科／婦人科／産科周産期科／小児科／眼科／皮膚科／形成外科／泌尿器科／耳鼻咽喉科／神経精神科／放射線治療科／放射線診断科／麻酔科 ／総合診療科／歯科口腔外科／リハビリテーション科／遺伝子診療科					
	【中央部門】 薬剤部／検査部／病理部／放射線部／手術部／医療材料部／リハビリテーション部／高度救命救急センター／集中治療部／医療安全部／感染制御部／臨床工学部／看護部／医療連携福祉センター／栄養管理センター／臨床研修・医師キャリア支援センター／看護キャリア支援センター ※画像・映像支援部門（大学組織）					
病床数	932床（一般病床890床 精神病床42床）					
診療実績	入院	入院延患者数	261,391人	外来	外来延患者数	415,655人
		新規入院患者数	18,644人		1日平均患者数	1,696.6人
		1日平均患者数	761.1人		手術件数	7,552件
					1日平均手術件数	30.8件

※ 2018年



札幌医科大学付属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地
電話：011-611-2111（内線 36870）
FAX：011-621-8059
メール：pt.ot-center@sapmed.ac.jp



新たなる PT・OT の キャリア形成



ご挨拶



札幌医科大学附属病院
病院長 土橋 和文

札幌医科大学附属病院は、“道都”札幌の中心にある、公立の医系総合大学の附属病院です。自由闊達で新進気鋭の、門戸開放と変革の精神は開学以来の伝統です。

本学では、昭和 58 年に札幌医科大学衛生短期大学部、平成元年に保健医療学部へ発展改組致して参りました。これまで卒業生は 1000 名超全国各地で活躍されています。平成 26 年度には、これまでの保健医療学部および保健医療学部大学院教育に加えて、より実践的な「札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修プログラム」を先駆けて策定しました。全国より才能豊かな人材に恵まれ、科学的マインドを持った医療人の育成に寄与して参りました。

高齢者社会となり内因疾患の生命予後の改善もあり、理学・作業療法は数多くの医療分野において随一の成長分野であります。本学附属病院・教育関連施設などが関わる教育力は運動障害、内部障害、小児神経、高次機能ともに全国屈指です。

平成 30 年には、リハビリテーション階層を含む増築病棟が完成しました。また、今後数年で旧病棟の再編がなされ、新たな四半世紀への挑戦が始まります。共に未来医療の扉を開きましょう。

リハビリテーションは、近年、対象となる疾病ならびに障害の幅が大きく広がり、臓器別診療科の治療と協働して、急性期から生活期まで適切なチーム医療を進めることが求められています。リハビリテーション対象者の心身機能・活動・参加の向上に介入する理学療法士・作業療法士への期待は、これまでも増して高まっており、さらに高度な専門性が要求されるようになりました。

当センターの研修プログラムは、高度化する医療に対応する最先端の理学療法や作業療法を推進していくため、基礎的・専門的知識、技術、および医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指しています。理学療法士・作業療法士の養成過程を有する医系総合大学と大学附属病院という環境を最大限に活かし、リハビリテーション科および関連診療科との良好な協力関係を基盤とした研修体制を構築しました。教育と研究を基盤とした研修環境は、エビデンスに基づく科学的な臨床的資質を磨き上げるのに最適です。

研修を希望する理学療法士・作業療法士の多様な臨床経験に配慮し、新卒研修や高度専門研修、および学び直しなどといった柔軟な研修プログラムの選択が可能となっています。経験や専門性に応じて、研修コーディネーターが、最適な研修を推進できる個別プログラムを提供します。

本研修制度は全国に先駆けてスタートしました。本学附属病院、理学療法士・作業療法士研修センターは、これからの理学療法・作業療法を担っていただく方々の新しいキャリア形成に大きく貢献できるように、研修生の皆さんと共にプログラムを発展させていきます。



PT・OT 研修センター長
リハビリテーション
医学講座
教授 石合 純夫

研修理念

高度化する医療に対応する最先端の理学療法・作業療法を推進するため、基礎的・専門的知識、技術、医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指す。

研修特徴

勤務しながら研修

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部において、実際に勤務しながら研修を受けることができ、実践的な内容を学ぶことができます。



関係診療科との連携

大学附属病院という先端の医療を担う当院の関係診療科との連携を深めながら研修を実施することで、より専門的な知識を習得することができます。



個別プログラム

多様な臨床経験や希望する研修内容に配慮し、研修目的に応じた研修コーディネーターを配置した個別のプログラムになっています。



プログラムコーディネーターメッセージ



PT・OT 研修センター
副センター長
運動器・内部障害系コース
プログラムコーディネーター
理学療法第二講座
教授 片寄 正樹

高齢化社会における地域医療、そして、複雑高度化する医療など、理学療法・作業療法が大きく貢献できる対象も広がりを見せています。その広がりの中、理学療法・作業療法の専門性をチーム医療で発揮できる素養や専門分化してきた医療現場のニーズに応じていく高度な臨床能力など、求められる能力や専門性も多岐にわたってきました。

しかし、その基本は臨床現場で求められる医療に適切に対応するとともに、学術研究成果を活用した先端知識、技能を活用することといえます。

本研修センターでは、1) 医系総合大学の教育・研究を基盤とした研修環境で、2) 研修療法士の臨床経験、目的に応じた個別研修を企画し、3) 臨床実務から学び続けていける人材を養成するプログラムを運営しています。

研修コーディネーターにより、研修療法士の学ぶべき内容に応じた医学部・保健医療学部の教授陣、およびリハビリテーション部スタッフで複数の指導者を構成し、個別の研修療法士の充実した研修をすすめる環境を確保しています。専門コースでは関連専門診療科の講師陣による指導も直接うけることができるなど、これまでにない研修環境も整備しています。理学療法士、作業療法士の先進的なキャリア育成としての本研修センターでの研修を経て、今後の活躍を大いに期待したいと思います。

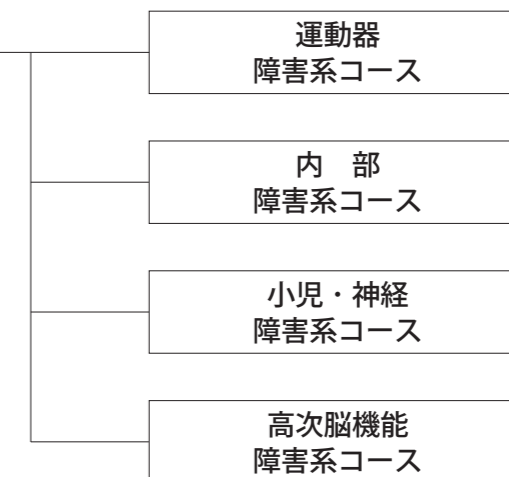
研修コース

総合研修プログラム

理学療法・作業療法について、総合的に学びます。
新卒者および先端的な理学療法・作業療法の学び直しを希望される方を対象としています。

専門研修プログラム

専門性に応じた4つのコースがあります。
この専門研修プログラムは、研修内容に応じ関係診療科と連携した研修をすすめることができます。
各コースに関係診療科との連携と専門性を備えた研修コーディネーターを配置しています。



年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修開始	1クール 8月上旬(症例報告会1)			2クール 11月上旬(症例報告会2)			3クール 2月上旬(症例報告会3)			研修終了	

* おおまかな予定



▲ 症例報告会の様子



▼ 修了式

日々臨床を行いながら、年間3症例のケースレポートを作成。1クール毎に症例報告会を行う。
このレポートをもとに評価を行う。

総合研修プログラム

幅広い知識や技術に限らず、 疾患別リハビリテーションに対応する基本的な能力を養う。

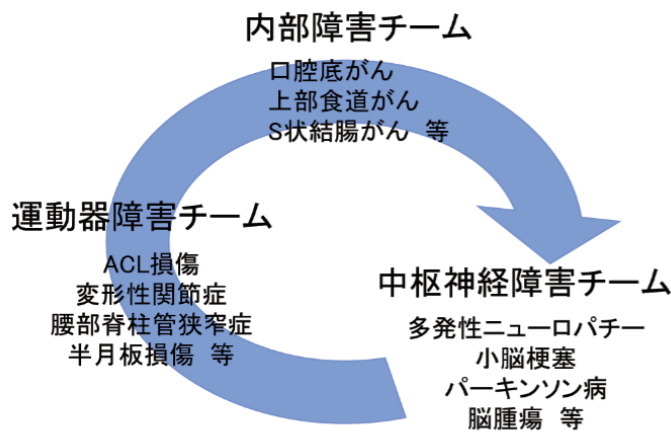
研修の初期段階では、基礎的な病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。

さらに ADL 場面で認められる障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追求します。また、当院において取り組んでいる神経再生に伴うリハビリテーション場面を見学する機会も設けています。

また、理学療法部門では3つの分野に分かれたチームを1年かけローテーションしていくことで、より総合的な研修を実施していきます。

新卒者および先端的な理学療法・作業療法の学び直しを希望される方を対象としています。

- 研修期間：原則1年
- コーディネーター：柿澤雅史（リハビリテーション部 副部長）
- 指導者：リハビリテーション部 理学療法士・作業療法士



総合研修では、1クール終了と同時にチームを移り研修を行っていきます。

1年間で内部障害チーム・運動器障害チーム・中枢神経障害チームの3チームをローテーションしてきます。これにより総合的な研修を実現しています。

*理学療法のみ

プログラム コーディネーター メッセージ



総合研修
プログラムコーディネーター
リハビリテーション部
副部長 柿澤 雅史

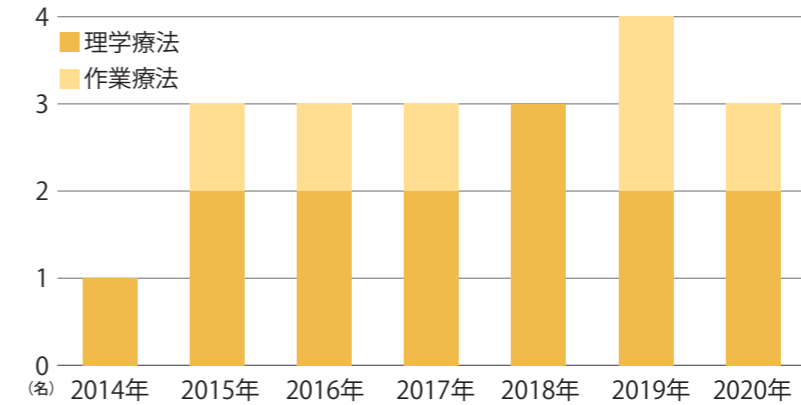
現在、リハビリテーション医療はより高度専門化し、卒前教育の知識、技術のみで臨床の場で十分に対応できる能力を身につけることは困難となってきています。個々の理学療法士、作業療法士は、各勤務先の医療機関内での教育システムや様々な研修会、講習会等へ参加することで、自己努力によりスキルを高め、この状況に対応しています。

このような背景の中、平成26年度より、札幌医科大学附属病院では、理学療法士・作業療法士研修制度を開始しました。先端医療を提供する大学附属病院という環境を活かし、関連する様々な診療科と連携した個別のプログラムを提供することで高度なリハビリテーション臨床能力を身につけることを目指しています。

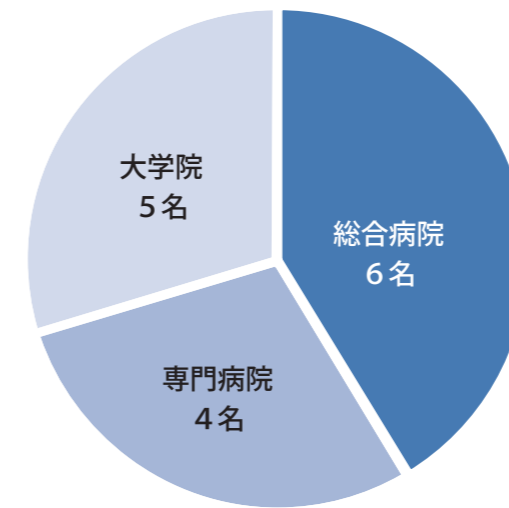
総合研修プログラムでは、新卒者や先端的な理学療法、作業療法の学び直しを希望される方を対象とし、各種疾患別リハビリテーションの基礎的な能力を養います。専門研修プログラムでは、運動器障害系、内部障害系、小児・神経障害系、高次脳機能障害系の4つのコースを設置し、各専門性に特化した能力を磨いていきます。

あなたも高い臨床能力を有し、地域のリハビリテーション医療に貢献できる理学療法士、作業療法士をめざしませんか。

過去の受け入れ状況



修了後の進路 (総合研修プログラム修了者)



*主な進路先

- 札幌医科大学 大学院
- 札幌医科大学附属病院
- 柏葉脳神経外科病院
- 札幌円山整形外科病院
- 北海道立子ども総合医療・療育センター

修了者の声

総合研修プログラムでは様々な疾患に対する理学療法を経験させて頂き、基本的な理学療法の考え方を学ばせて頂きました。また、大学病院という環境を活かし臨床において、医師や他職種との関わりがとても重要だということを知りました。症例報告を通じ、自分の考えをまとめ、伝えることの難しさを痛感しました。この研修でしか経験することのできない様々な機会を得ることができ、今後の臨床や研究活動へのきっかけとなる1年となりました。

総合研修プログラム修了者
山津 健太 (PT)

総合研修プログラムでは、多様な疾患の臨床を経験させて頂き、領域に捉われない多角的な視野を持つことができました。症例報告では、担当症例の病態を深く理解するために、経験豊富な指導者と何度も意見交換をさせて頂きました。また、自分で理解したことを文章やプレゼン資料にして人に伝えることの難しさを感じました。さらに、指導者から臨床に関わることだけでなく、社会人として必要なことを多く教えて頂き、とても充実した1年でした。

総合研修プログラム修了者
丸山 幸輝 (PT)

総合研修プログラムでの一年間を通して、多くの疾患に対する作業療法を経験させて頂きました。リハビリ以外にも看護師や理学療法士・言語聴覚士といった多職種とコミュニケーションだけでなく、医師とのコミュニケーションも学ぶことができ非常に貴重な経験ができたと感じております。症例報告では、指導者だけでなく、様々な方から意見を頂くことができ、幅広い視点を持つきっかけにもなりました。研修プログラムでの一年間は今後の診療において、とても有意義な経験になると感じました。

総合研修プログラム修了者
小島 虎太郎 (OT)

専門研修プログラム

運動器障害系コース



運動器障害に対する治療チームにおいて
自律して活躍できる専門療法士を目指す。

研修の初期段階では、基礎的な運動器障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。

さらに ADL 場面で認められる運動器障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。

- 研修期間：原則 1 年
- コーディネーター：片寄正樹（理学療法学第二講座 教授）
- 指導者：リハビリテーション部 理学療法士・作業療法士

内部障害系コース



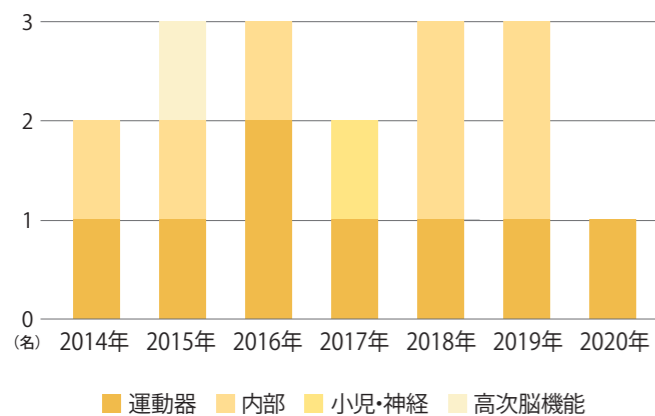
呼吸器理学療法や循環器理学療法に関する専門的な能力を取得。

研修の初期段階では、基礎的な呼吸循環機能障害で認められる症状に対する理解を深め、また、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。

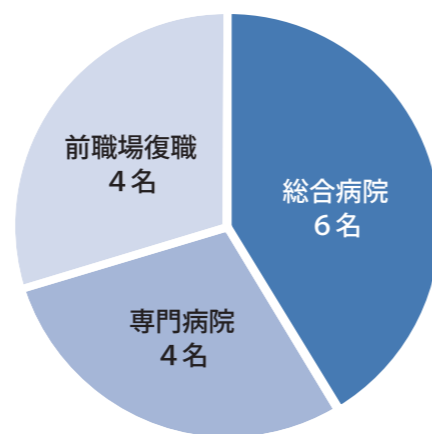
研修の後半では、得られた結果からどのような治療介入が適切であるのかを学びます。呼吸循環機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法を選択し、治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性について検討します。さらに ADL 場面で認められる呼吸循環機能障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。

- 研修期間：原則 1 年
- コーディネーター：橋本暁佳（循環器・腎臓・代謝内分泌内科 准教授）/ 片寄正樹（理学療法学第二講座 教授）

過去の受け入れ状況



修了後の進路（専門研修プログラム修了者）



小児・神経障害系コース



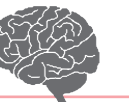
小児発達障害に関する幅広い知識や技術に加え、
神経障害の病態に対する専門的な理学療法および作業療法を学ぶ。

研修の初期段階では、基礎的な小児発達障害（早産低出生体重児、ハイリスク新生児から引き続く障害）、神経筋疾患を含む神経障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。

家族を中心としたアプローチの方法、成人の場合は社会復帰を目標としたアプローチの方法についての多くの情報を整理し、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。

- 研修期間：原則 1 年
- コーディネーター：小塚直樹（理学療法学第一講座 教授）
- 指導者：リハビリテーション部 理学療法士・作業療法士

高次脳機能障害系コース



高次脳機能障害に対する検査バッテリーから
作業療法場面での治療介入につなげる過程を学ぶ。

研修の初期段階では、基礎的な高次脳機能障害で認められる症状に対する理解を深め、責任病巣について学びます。また、検査バッテリーの実施方法と検査結果の解釈についても学びます。さらに ADL 場面で認められる高次脳機能障害に対する観察評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、検査との整合性を追究します。

得られた結果からどのような治療介入が適切であるのか、高次脳機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法の選択を検討します。治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性についても検討します。

- 研修期間：原則 1 年
- コーディネーター：太田久晶（作業療法学第一講座 教授）

修了者の声

内部障害系コースでは、大学病院ならではの重症心不全例や TAVI・Mitra clip 施行例、肺高血圧症例など幅広い症例を経験させていただきました。普段の臨床や指導、多職種カンファレンス、年 3 回の症例報告を通して、病態や治療の理解を深める事ができ、自身の成長に繋がったと実感しています。また、臨床だけではなく学会発表の経験もさせていただき、プレゼン資料の作成や発表の仕方まで経験のある指導者に指導していただいたので大変貴重な経験になりました。

専門研修プログラム内部障害系コース
修了者 井上 拓也

回復期での理学療法を行う中で、様々な疾患に対する評価・介入に不足を感じ、運動器の基礎を学び、様々な疾患への応用力を得る目的でこの研修プログラムへ参加しました。毎週行われる新患カンファレンスでは、病態の把握からリスク管理までの考え方を熱心に指導して頂ける環境であり、多くのことを学ぶことが出来ました。また、整形外科医とのディスカッションが行いやすく、手術見学をさせて頂く機会も設けて頂き充実した研修となりました。

専門研修プログラム運動器障害系コース
修了者 海老原 知恵

1. 募集人数

総合研修プログラム / 専門研修プログラム合わせ 5 名程度。

2. 研修期間

令和3年4月1日から原則1年間

3. 応募資格

- ① 理学療法士免許または作業療法士免許を持つ者
- ② 第56回理学療法士国家試験または第56回作業療法士国家試験の受験予定者

4. 募集期間

令和2年9月1日（火）～10月30日（金）

5. 事前連絡先

希望するプログラムのコーディネーターに事前に必ず連絡することをお願いしております。

電話もしくはメールにて希望する研修の実現が可能かどうかご確認ください。

☎札幌医科大学附属病院代表電話番号 011-611-2111

研修プログラム		プログラム コーディネーター	内線	メールアドレス
総合研修プログラム		柿澤 雅史	36870	kakizawa@sapmed.ac.jp
専門研修 プログラム	運動器障害系コース	片寄 正樹	29620	katayose@sapmed.ac.jp
	内部障害系コース			
	小児・神経障害系コース	小塚 直樹	28780	kozuka@sapmed.ac.jp
	高次脳機能障害系コース	太田 久晶	28450	hisoh@sapmed.ac.jp

6. 応募書類

下記の必要書類を郵送または持参により提出ください。

(1) 提出書類

- ① 札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士願書（様式指定）
- ② 履歴書
- ③ 卒業（見込）証明書
- ④ 国家資格免許証の写し
- ⑤ 研修承諾書（既所属先に在籍のまま研修を受ける場合）（様式指定）
- ⑥ 推薦書（総合研修プログラムに応募する新卒者のみ）（様式指定）

※様式が指定されているものについては、下記からダウンロードしてください。

<https://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/program.html#program1>

(2) 提出先

〒060-8543

札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部

※持参の場合：受付時間9:00～17:00（ただし、土日祝は対応不可）

郵送の場合：応募期間内に必着とします。封筒の表面に「研修療法士願書在中」と記入ください。

7. 選考方法

面接試験を実施の上、合格者を決定します。

- 選考試験実施日：令和2年11月17日（火）

8. 結果通知

令和2年11月下旬、順次郵送にて結果を通知します。

9. 処遇

- 雇用形態：非常勤（日々雇用職員）
- 給与：¥8,693 / 日（業務経験年数6年未満の場合）
¥10,773 / 日（業務経験年数6年以上の場合）
通勤手当有
- 勤務時間：月～金曜日 8:45～17:30
- 休暇：年次有給休暇有り（10日）／夏期・冬期休暇有り／年末年始有り／その他休暇有り
- 公的医療保険：健康保険
- 公的年金保険：厚生年金
- 労働者災害補償保険法の適用／雇用保険：有り
- 理学療法士・作業療法士賠償責任保険：病院において加入しない（個人加入：任意）
- 学会・研究会等への参加費用支給：一部有り

10. 問い合わせ先

札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

メール：pt.ot-center@sapmed.ac.jp

電話：011-611-2111（代表）（内線：36870） FAX：011-621-8059

その他の詳細につきましては、札幌医科大学附属病院 HP をご覧ください。

<https://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/>



■研修管理評価委員会

土橋 和文（委員長 / 札幌医科大学附属病院長）
 石合 純夫（リハビリテーション医学講座 教授）
 片寄 正樹（理学療法学第二講座 教授）
 橋本 暁佳（循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 / 病院管理学 准教授）
 渡邊 耕太（研修評価実務者 WG 座長 / 理学療法学第二講座 教授）
 千葉 弘文（呼吸器・アレルギー内科学講座 准教授）
 成松 英智（救急医学講座 教授）
 仙石 泰仁（作業療法学第二講座 教授）
 小塚 直樹（理学療法学第一講座 教授）
 柿澤 雅史（リハビリテーション部 副部長）
 太田 久晶（作業療法学第一講座 教授）
 青木 昌弘（リハビリテーション医学講座 助教）

■研修センター

石合 純夫（センター長）
 片寄 正樹（副センター長）
 橋本 暁佳（運営委員）
 仙石 泰仁（運営委員）
 小塚 直樹（運営委員）
 柿澤 雅史（運営委員）
 太田 久晶（運営委員）
 青木 昌弘（運営委員）